

国立大学附属幼稚園からの提案 5

協同して遊ぶことに関する指導の在り方

～文部科学省委託「幼児教育の改善・充実調査研究事業」への取組から～



目次

発刊に当たって	1
協同して遊ぶようになる過程	2
初めての集団生活の中で様々な環境と出会う時期	3
遊びが充実し自己を発揮する時期	5
人間関係が深まり学び合いが可能となる時期	7
平成22年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ等一覧	9

平成22年3月

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

発刊に当たって

国立大学附属幼稚園が行っている研究活動の一端をまとめてリーフレットを作成し、広く全国の教育関係者や組織に発信するようになって4年が経過しました。この間、各方面から関心をお寄せいただき、様々なご意見や励ましをいただきましたことに感謝申し上げます。

さて、全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会では、平成21年4月より1年間、文部科学省から委託を受け、幼児教育の改善・充実調査研究事業「幼稚園における教育課程上の諸課題に対応した実践的調査研究－協同して遊ぶことに関する指導の在り方－」に取り組んでまいりました。

今年度のリーフレットには、この研究の概略を掲載いたします。皆様の活動の参考にしていただければ幸いです。

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会
部会長 永原 恵三

発刊によせて

平成21年度より新幼稚園教育要領が実施されました。現在、文部科学省幼児教育課では、幼児教育の改善・充実調査研究事業として、教育課程上の諸課題に対応した実践的調査研究や幼児教育支援方策に関する調査研究を実施し、幼児教育の一層の充実・推進を図っており、その一環として、全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会にも、「協同して遊ぶことに関する指導の在り方」を研究テーマに、事例集の作成に取り組んでいただいております。

協同して遊ぶことに関する指導の在り方を探ることは、発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図り、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図る上で、喫緊の課題であります。

幼児は、幼児期にふさわしい生活を通して、他の幼児とのかかわりの中で自発性を発揮し、この自発性を基盤として、より生き生きとした深みのある人間関係を繰り広げていきます。さらに、こうした人間関係の中で、幼児が互いにかかわりを深めて共に活動しながら、一つの目的を共有し、それを実現しようと試行錯誤したり、折り合いをつけたり、課題を解決したりしながら協同の活動ができるようになります。そして、そのような体験が小学校以降の教育の基礎となるのです。

これまでも、国立大学附属幼稚園は、幼稚園教育の実践研究を着実に積み重ね、幼児教育の進展に寄与されてきましたが、今回、このように、協同して遊ぶことやその指導に関する事例を具体的に示すことにより、一層の幼児教育の発展やその質の向上に寄与することを期待しています。

文部科学省初等中等教育局幼児教育課
課長 濱谷 浩樹

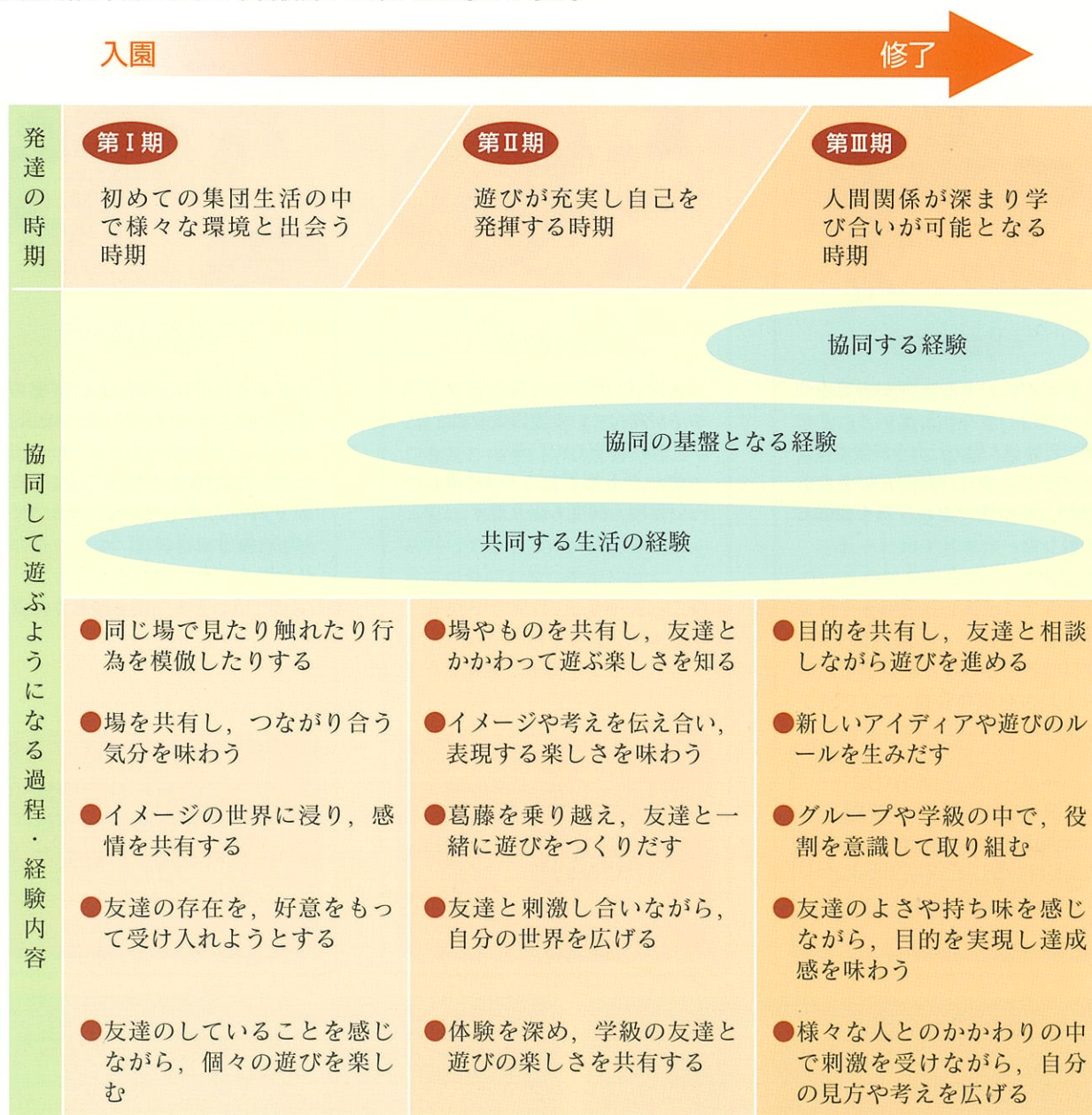
協同して遊ぶようになる過程

下図に示した3つの発達の時期は、人間関係の発達の流れに沿った大きなまとまりを示すものであり、おおよそ、次のようにおさえている。

- 第Ⅰ期 初めての集団生活の中で様々な環境と出会う時期 …… 3歳児入園～4歳児前半
- 第Ⅱ期 遊びが充実し自己を発揮する時期 …… 3歳児後半～5歳児前半
- 第Ⅲ期 人間関係が深まり学び合いが可能となる時期 …… 5歳児後半

しかし、例えば、4歳児後半は全体として第Ⅱ期に相当するが、幼児一人一人の発達や集団の雰囲気、経験の積み重ねなどの違いによって第Ⅰ期や第Ⅲ期の姿も見られるといったように、各期の全体を見ると、その前後の期の姿も見られることに留意する必要がある。第Ⅲ期において、仲間と相談したり刺激し合ったりしながら関係を深め、自分の見方や考えを広げていく「協同する経験」が可能となるには、第Ⅰ期において、空間や時間を共有し、一人一人の幼児が安心して過ごせるようになる「共同する生活の経験」を、第Ⅱ期において、様々な人とのかかわりやつながる喜びを感じ、十分に自己を発揮して遊ぶ「協同の基盤となる経験」を、それぞれ積み重ねていくことが重要である。

なお、図中の「協同して遊ぶようになる過程・経験内容」は、平成21年7月の全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会研究集会における事例検討から導かれたものである。



第Ⅰ期 初めての集団生活の中で様々な環境と出会う時期

この期の特徴

- 初めて出会う人やもの、出来事などに対して、不安な気持ちと新鮮な関心をもつ。
- 一人一人が自分のペースで行動する。
- 様々なことを身体の諸感覚を通してとらえ行動することが多いので、多様な感情を共有することが一人一人の行動する力を生みだす。
- 行為を模倣したり新たな方法を知ったりしながら、自分の世界を豊かなものにしていく。

同じ場で見たり触れたり
行為を模倣したりする

「ポコッ ポコッ」
(3歳児6月)



行動の模倣

砂場が大好きなA児が容器を使って面白い音を出している。その隣で教師がA児の行為を模倣する。

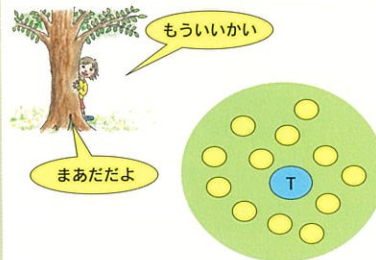
すると、やはり砂場が好きなB児が、その隣でその行為を模倣して楽しむ。

- ・ 一人一人が自分のペースで遊べる場や時間を保障し、教師や友達と同じ場にいる心地よさを感じられるようにする

行為そのものの心地よさを感じて、模倣しながら自分の世界を広げていく

場を共有し、
つながり合う気分を味わう

「もういいかい」「まあだだよ」
(3歳児5月)



一緒の気分

A児は、大好きな先生とクラスの子が遊んでいる雰囲気相手に、かくれんぼをしている。

誰からも応答はないが、楽しそうに何度も何度も繰り返す。

- ・ みんなとつながっているという感覚を、教師も共に味わう

応答し合う心地よさを味わう

みんなとみんなの中にいる自分を意識する

イメージの世界に浸り、
感情を共有する

「先生、もう一回」
(3歳児7月)



感情の共有

子どもたちは、息をのんで「女の子がへびにかまれてしまう場面」を待ち、その場面がくると「キャー」と言いながら顔を伏せたり、手を握り合ったりしている。そして、「先生、もう一回」と言う。

- ・ クラスのみんなで感情を共有する醍醐味が感じられるような機会をつくる

集団が醸し出す臨場感を味わう

指導の POINT!

- 集団で生活することへの安心感がもてるように、生活の流れに配慮する。
- 安定した園生活の中で、ありのままの自分を発揮できるように、一人一人の思いを十分に受け止める。
- 友達とつながる気分を味わえるように、教師も一緒に幼児の行為を模倣したり、動きのリズムを合わせたりする。
- 自分の思いが通じる喜びを味わえるように、教師は体や言葉でのやりとりの仕方を知らせるモデルとなる。

友達の存在を、好意をもって受け入れようとする

友達のしていることを感じながら、個々の遊びを楽しむ

「Aちゃんもピンク好きなんだ!」(3歳児9月)



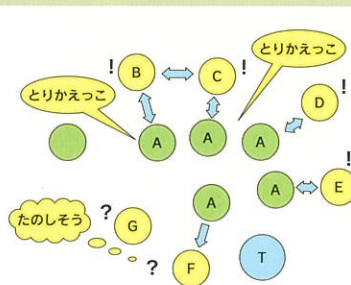
親近感

最初、B児はA児のことをピンクのものを独り占めする嫌な相手だと思っていた。

しかし、教師の「Aちゃんはね、ピンクがだ〜い好きなんだって」という一言で、自分と同じ感覚をもっていることに気づき、A児に肯定的な感情を抱くようになった。

- ・ 幼児の行為や思いに心を傾け、肯定的な見方で受け入れる

「とりかえっこ」(3歳児10月)



かかわり方の体験

A児は、隣に座っていたB児に「とりかえっこ!」と言って、おやつを差し出す。B児は、自分のおやつの中から1つ選んでA児に渡す。A児は、みんなに「とりかえっこ!」と言ってみる。みんなは、うれしそうに自分のおやつを差し出す。

F児やG児は、とりかえっこのシステムが理解できなくても楽しそうな雰囲気を感じている。

- ・ 幼児自らが、友達との様々なかかわり方を、楽しみながら体験できるようにする

「合体!」(4歳児5月)



あるときは相手を仲間のひとりに見立てて遊び、あるときは飛行機ごっこをしている子たちを本物の飛行機に見立てて自分の遊びのストーリーの中に組み込んでいく



共にいる楽しさ

3人が飛行機のイメージを身体で表現して遊んでいる。A児は、身近な素材を身にまとい恐竜になりきっている。B児は、積み木で自分の分身を作って楽しんでいる。

それぞれの子どもは一緒に遊んでいるわけではないが、あるときは相手を仲間の一人として意識したり、飛行機ごっこの3人を本物の飛行機に乗っているように見立てたりして、自分の遊びのストーリーの中に組み込み、遊びを楽しんでいる。

- ・ それぞれの遊びが面白くなるような素材や場を工夫する

自分と同じ感覚をもつ友達と共にいる心地よさを味わう

友達とのかかわりの面白さに気付く見て、感じて、行動しながら、かかわり方を知る

伝わっていく心地よさを感じる

周囲に友達がいることで遊びが面白くなることを感じる友達と共にいることは面白いと思う感覚をもつ

第Ⅱ期 遊びが充実し自己を発揮する時期

この期の特徴

- 興味をもち、好奇心を抱いたものには繰り返しかかわり、もっと面白くしたいと考えたり、試したり、工夫したりしながら、自分らしさを発揮していく。
- 友達のしていることに関心をもち、同じことを一緒に楽しみたいという気持ちが生まれ、他者とのかかわりが活発になる。

場やものを共有し、友達とかかわって遊ぶ楽しさを知る

「ジースリーにしよう」 (4歳児7月)



感情の共有

空き箱でロボットを作った3人は、それに「ジースリー」という名前を付けて友達のように連れ歩いている。

体重測定になると、自分たちと同じようにジースリーを体重計にのせている。

- ・一人一人の思いを発揮させ、その子らしいかわり方を大切にする

場やもののイメージを共有し、友達の思いを感じながら遊ぶ

イメージや考えを伝え合い、表現する楽しさを味わう

「いい鬼になるごはん食べて」 (4歳児6月)



イメージの共有

3人が自分たちで作ったステッキで呪文を唱える。呪文で教師が小さくなるとそれが楽しく、追いかけては小さくさせる鬼ごっこになる。

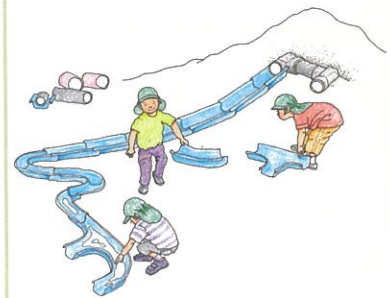
鬼の家をつくる、ご飯を食べさせるなど、イメージを共有して遊ぶ。

- ・幼児の表現を受け止め、他の幼児に伝えていく

自分とは異なる考えや表現方法をもっている他者に気付き、一人では味わえない楽しさを味わう

葛藤を乗り越え、友達と一緒に遊びをつくりだす

「スピードアップさせたい」 (4歳児7月)



葛藤体験の共有

A児たちが砂場で樋を使い、水を流して遊んでいる。築山の頂上から樋をつなげて勢いよく水を流したいと思ったB児は、黙って樋を持って行こうとしてトラブルになる。

教師がB児と一緒に築山から水を流して遊んでいると、それを見ていたA児が樋を貸してくれ、二人は勢いよく水を流す楽しさを共有した。

- ・幼児同士の葛藤を生かし、新たな視点を見いだしていけるようにする

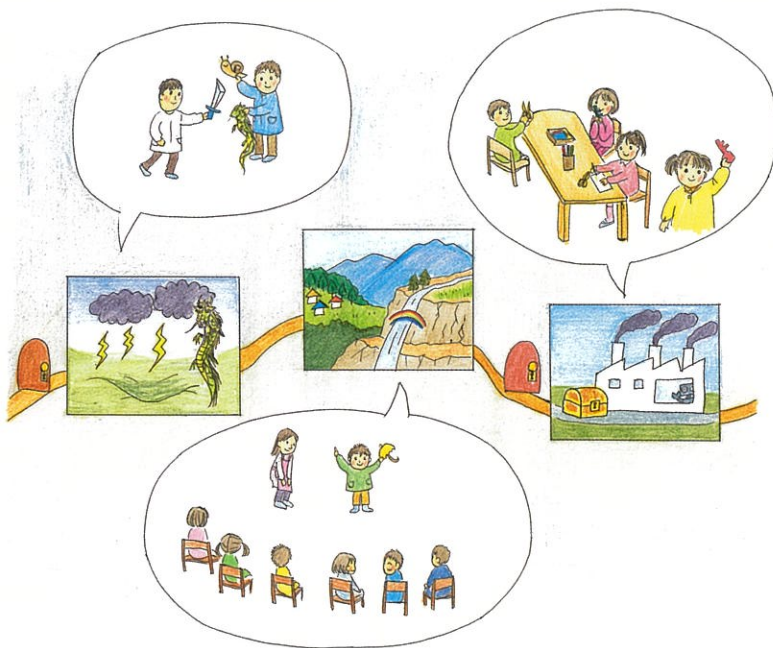
揺れ動く心の葛藤と、それを乗り越えて味わう感動を共有する

指導の POINT!

- 想像の世界を広げられるように、様々な素材に触れられるような環境を構成し、その子なりの表現を受け止める。
- 遊びをつくりだす楽しさや友達との遊びの楽しさが味わえるように、教師はアイデアを提供したり、幼児同士をつなぐ材料や用具、空間の構成などの環境を工夫したりする。
- 友達の様々な思いや考えに気付き、新たな視点を見いだしていけるように、いざこざや葛藤の場面を大切に援助する。
- みんなの中の自分を感じられるように、体験が共有されていくような状況をつくる。

友達と刺激し合いながら、自分の世界を広げる

私のお話はね…… (4歳児12月)



情報の共有

T児が自分で作ったお話をみんなの前でしたことがきっかけとなって、それぞれの子どもが、それぞれの思いでお話のつづきやお話の中に出てくるグッズをつくって、お話づくりを楽しんでいた。

- ・互いのよさを生かし、受け入れ合える関係をつくる

刺激を受けてイメージを広げたり、繰り返すと変化を楽しんだりする

様々なイメージやアイデアをつないでいくことにより、一人では体験できない情報や感情の共有を感じとる

体験を深め、学級の友達と遊びの楽しさを共有する

「きのご回しのコツはね」 (4歳児1月～5歳児5月)



遊びの楽しさの共有

5歳児のコマ回しを見ていてやりたくなった4歳児が、先生からコマを借りて5歳児のやり方をじっと見ながら挑戦している。そこに、「コツはね……」「やってみるから見てね」と数人の幼児が集まる。やがて、みんなきのご回しができるようになり、次の技に挑戦し始める。

お弁当のときに、「コマの回し方自慢」が話題となる。

- ・イメージの基盤となるような体験を共有できるようにする

気の合う友達と、楽しみや遊びの目的を共有する

第Ⅲ期 人間関係が深まり学び合いが可能となる時期

この期の特徴

- 互いに主張し合いながら、関係を深める。
- 意欲や見通しをもち、自分たちで遊びや生活をつくりだす。
- 遊びが充実し、興味や関心が広がり深まる。
- 役割意識をもって行動する。
- 協同的な活動を通して、友達によさに気づき、様々な自分と出会う。
- 小学校にあこがれや期待をもつ。

目的を共有し、友達と相談しながら遊びを進める

グループや

新しいアイデアや遊びのルールを生みだす

しかけづくり (5歳児9月～10月)



A児たち6人は、園庭に掘った穴を地獄谷と呼び、自分たちの基地にして遊んでいた。A児は新しい仕掛けに「とげとげ山」をつくり、障害物リレーの障害にしたいと言出した。どのようにしたら本物らしく見えるか考え、積み木や板を使ってみた。その過程で、「とげとげ山には見えない」と言っては壊し、安定感がなくて崩れ、イメージの違いから友達とトラブルになることもあった。最後は、安定のいい大型ブロックに小さいブロックを立てて、とげとげ山に見立てた。

- ・目的が明確になるよう、ものを通して相談する状況をつくる

網を落とす合図は？ (5歳児11月)



前庭の木々を様々な素材で飾り、妖怪に見立てて遊んでいたA児たちは、仕掛けの網を落とすタイミングがうまくいかない。B児が合図をする役になるが、「つまらない」と言ってやめてしまう。教師が「合図をほかのものに代えたら？」と提案すると、A児が懐中電灯をつけ、妖怪の目を光らせたら網を落とすことを思いつき、「B児が妖怪の目を光らせたらC児が網を落とすことにしよう」という了解事項ができた。

- ・困った場面や困難な出来事をとらえ、幼児のアイデアを生かして、一緒に考える場をつくる

遊びをつなげ、みんなで一つの物語をつくる(5歳児11月)



ほし組では、探検ごっこ、人魚のダンス、お化け屋敷ごっこなどの遊びが展開している。

子ども会が近づいたある日、子ども会について相談する。

- ・目的を共有しやすいよう、環境を工夫する

試行錯誤しながら、友達と一緒に作る(5歳児11月)



- ・友達とのかかわりが生まれやすい場所・時間・素材・道具を提案する

ものや人を通して相談することにより、目的が共有されていく面白さを感じる

了解しながら遊びを進めていく心地よさを味わう

互いの持ち味を子ども同士が感じながら、「ぼくたちが作った」という意識をもつ

仲間とともに、一人では得られない遊びの面白さや楽しさを味わう

挑戦的な課題に向かって、それぞれの力を発揮する

指導の POINT!

- 幼児が互いの思いや考えに気付き、自分たちで解決していこうと調整していけるように、周囲の幼児も巻き込みながら、幼児同士で考えたり相談したりする状況をつくる。
- 幼児が仲間と共に一人では得られない遊びの面白さを味わえるように、それぞれの活動が互いに関連し合って新しい活動が生みだされるような保育を、見通しをもって構想していく。
- 幼児が自己課題を見だし、友達と一緒にやり遂げた満足感を味わえるように、より挑戦的な活動が展開できるような状況をつくったり、協力の必要な環境を提案したりする。
- 幼児一人一人のよさや持ち味を発揮できるように、幼児同士をつなぎ、互いに認め合い支え合う生き生きとした関係をはぐくむ学級の雰囲気をつくる。

学級の中で、役割を意識して取り組む

友達のよさや持ち味を感じながら、目的を実現し達成感を味わう

様々な人とのかかわりの中で刺激を受けながら、自分の見方や考えを広げる

教え合い、ほほえみ合う (5歳児11月)



折り紙でハート作りに挑戦しているR児。うまく作れずに涙をぬぐう。教師はさりげなく寄り添い、折り方を見せる。

4つのハートをつなごうとするR児に、A児が優しく教える。四つ葉が完成すると、二人は顔を見合わせて、ほほえみ合った。

- ・ 一人一人のよさや持ち味を認め、幼児同士をつなぐ

小学生との出会いを通して 興味や関心を広げる (5歳児1月)



池に氷が張った、ある冬の日。「池の金魚は寒くてかわいそう」という5歳児。「池と水槽の温度を測ってみよう」と提案する小学校1年生。

ものの見方や考え方に違いがあり、子どもたちが冬の生物や水の中の生き物に関心をもつ機会ととらえ、小学校教諭と連絡を取り合った。

- ・ 新しい見方や考え方が生まれるような出会いの場を工夫する

仲間と相談する (5歳児12月)



探検隊の子どもたちが、自分たちだけのマークを作ろうと仲間を集めて相談している。探検隊の子どもたちは、それぞれに☆のマークを作りだす。

その後、子ども会で演じるとともに、子どもたちの遊びも広がった。

- ・ 幼児の興味や関心を生かし、見通しをもって保育を展開する

得意でないことにも挑戦しようとする

友達とかかわりながら、自分の世界を広げる

互いに考えを伝え合い、仲間意識を高める

対象に対する見方や考え方の違いが刺激となって、自分の見方や考えを広げる

平成22年度 全国国立大学附属幼稚園研究テーマ等一覧

	幼稚園名	研究テーマ	公開研究会等
1	北海道教育大学 附属旭川幼稚園	幼児の社会性を育む教育的支援のあり方	22.10.9(土)
2	北海道教育大学 附属函館幼稚園	今後の幼稚園の子育て支援のあり方について	22.10.16(土)
3	弘前大学教育学部 附属幼稚園	協同的な学びを考える (2年次)	22.7.3(土)
4	岩手大学教育学部 附属幼稚園	学びの基礎を培う遊びの充実を目指して -豊かな感性と表現をはぐむ遊びの援助と環境を考える-	22.10.16(土)
5	宮城教育大学 附属幼稚園	かかわる力を育てる -協同して遊ぶ姿をめざして- (2年次)	22.6.3(木) 6.4(金)
6	秋田大学教育文化学部 附属幼稚園	子どもの遊びを見つめる -遊びを中心とする保育における保育の計画性-	22.6.24(木)
7	山形大学附属幼稚園	自然とかかわりながら活動を生み出す子を育む	22.6.2(水)
8	福島大学附属幼稚園	学びの連続性を考える -学びの物語を通して-	22.5.20(木) 5.21(金) 9.4(土)
9	茨城大学教育学部 附属幼稚園	遊びの中の学びを支える -教師の役割-	22.6.22(火) 11.17(水)
10	宇都宮大学教育学部 附属幼稚園	仲間の一員としての「私」の在り方	22.10.21(木)
11	群馬大学教育学部 附属幼稚園	幼児が試したり工夫したりしながら、自らの思いを実現する 保育の在り方 (2年次)	22.6.10(木) 10.30(土)
12	埼玉大学教育学部 附属幼稚園	蓄積された園文化に基づく実践資料の作成	22.11.13(土)
13	千葉大学教育学部 附属幼稚園	多様な体験を生み出す保育環境をめざして -言葉による伝え合いを考える- (2年次)	22.10.27(水)
14	東京学芸大学 附属幼稚園小金井園舎	今日から明日へつながる保育 -協同性に着目した指導計画の作成-	22.6.26(土) 11.20(土) 23.1.29(土)
	東京学芸大学 附属幼稚園竹早園舎	主体性を育む幼・小・中連携の教育	23.1.22(土)
15	お茶の水女子大学 附属幼稚園	環境に対する豊かな感受性を育む	22.9.17(金) 23.2.10(木)
16	山梨大学教育人間科学部 附属幼稚園	子どもが自らかかわり創り出す園生活	22.6.19(土)
17	新潟大学教育学部 附属幼稚園	社会的な知性を培う	22.10.21(木)
18	富山大学人間発達科学部 附属幼稚園	豊かな心をはぐくむ -変容する子どもの内面をとらえる-	22.6.23(水)
19	金沢大学附属幼稚園	学びをつなぐカリキュラムの編成にむけて -協同して生活する姿をみつめて-	22.6.3(木) 10.16(土)
20	福井大学教育地域科学部 附属幼稚園	伝え合う ひびき合う -協同して遊ぶ姿を求めて-	22.6.12(土)
21	信州大学教育学部 附属幼稚園	夢中になって遊び続ける子ども -子どもが「もの」「人」にかかわりながら感じている《楽しさ》に目を向けて-	22.11.13(土)
22	上越教育大学 附属幼稚園	幼稚園教育と小学校教育の接続期におけるカリキュラム と指導方法等の研究	22.10.6(水)
23	静岡大学教育学部 附属幼稚園	かかわりを育む環境	22.11.17(水)
24	愛知教育大学 附属幼稚園	心豊かな幼児の育成 -環境に視点をあてて-	22.11.11(木)

	幼稚園名	研究テーマ	公開研究会等
25	三重大学教育学部 附属幼稚園	教育課程の実践と定着Ⅱ －「活動を支えるもの」を見直す 表現・人間関係編－	23. 1 .22(土)
26	滋賀大学教育学部 附属幼稚園	自分と相手との関係性を創り出す子どもをめざして －協同する経験と教師の役割－	22.12. 3 (金)
27	京都教育大学 附属幼稚園	遊びの広がり・深まりと仲間づくり －「いや」「だめ(あかん)」に着目して－	22.11. 5 (金)
28	大阪教育大学 附属幼稚園	かかわる力を育む ～個の伸びに着目して～ －個の伸びを捉える視点を探る－	22.11. 6 (土)
29	兵庫教育大学 附属幼稚園	保育における「つながり」を考える －自然とともにある生活を通して－	22. 5 .26(水) 11. 3 (水) 23. 1 .26(水)
30	神戸大学附属幼稚園	子どもにとっての遊びの意味を問い直す	22. 8 . 4 (水)
31	奈良教育大学 附属幼稚園	自尊感の育ちに視点をあてた教育課程の改善(2年次)	22. 5 .22(土)
32	奈良女子大学 附属幼稚園	幼小一貫教育において『読解と表現をくつなぐ』論理的 思考力を育成する教育課程の研究開発	22.11.12(金)
33	鳥取大学附属幼稚園	学びをつなぐカリキュラムの創造	22. 7 . 2 (金)
34	島根大学教育学部 附属幼稚園	豊かな「社会生活」を創造する幼小中一貫教育の追究	22.11. 5 (金)
35	岡山大学教育学部 附属幼稚園	考える力を育てることばの教育を探る －豊かな体験の視点から－	22.11.10(水)
36	広島大学附属幼稚園	森で育つ －森の幼稚園の保育プラン－	22.11.11(木)
37	広島大学 附属三原幼稚園	幼小中一貫の教育力を生かした21世紀社会で求められる「人間 関係力と創造的問題解決能力」を総合的に育む学校カリキュ ラムおよび単元開発の研究	22.11.20(土) 11.21(日)
38	山口大学教育学部 附属幼稚園	子どもの育ちを促す保育環境の充実 －体を動かすことを楽しむ生活－ (3年次)	22.11. 5 (金)
39	鳴門教育大学 附属幼稚園	保育の質的充実を目指して －遊誘財データベースの構築－	22.11.20(土)
40	香川大学教育学部 附属幼稚園坂出園舎	協同への歩みを探る	23. 1 .28(金)
	香川大学教育学部 附属幼稚園高松園舎	幼小をつなぐ	23. 2 . 4 (金)
41	愛媛大学教育学部 附属幼稚園	未来を拓く力の育成	23. 2 .10(木)
42	高知大学教育学部 附属幼稚園	発達の連続性をふまえて経験の意味を問う －よく考えて行動する子どもを育む行事のあり方－	22. 6 .15(火) 8 .23(月) 11.25(木)
43	福岡教育大学 附属幼稚園	幼から小への連結を －伝承遊びを生かした人間関係力育成の試み－	23. 2 . 5 (土)
44	佐賀大学文化教育学部 附属幼稚園	遊びをみつめる －遊びと生きる力－	23. 2 .20(日)
45	長崎大学教育学部 附属幼稚園	人とかかわりを通してはぐくむ豊かな心	22.10.29(金)
46	熊本大学教育学部 附属幼稚園	幼児の遊び －つなぎ・ひろげ・深まる－	22.10.30(土)
47	大分大学教育福祉科学部 附属幼稚園	つながる子ども、学び合う子ども －遊びや生活を通して、結ぶ・広がる・深まる援助のあり方－	23. 2 . 5 (土)
48	宮崎大学教育文化学部 附属幼稚園	かかわる力を育てる援助の在り方 －わらべうた遊びを通して－ (2年次)	23. 2 . 5 (土)
49	鹿児島大学教育学部 附属幼稚園	かかわる力を育む －言葉の育ちに着目して－	23. 1 .21(金)



このリーフレットは、『協同して遊ぶことに関する指導の在り方』
(平成22年3月発行)のポイントをまとめたものです。

—発行—

全国国立大学附属学校連盟幼稚園部会

—事務局—

お茶の水女子大学附属幼稚園

〒112-8610 文京区大塚2-1-1 tel.03-5978-5881 fax.03-5978-5882
e-mail. ochayou@cc.ocha.ac.jp